

福島県中学校長会 広報

・会長挨拶「令和6年度を振り返って」	1
・学校教育の今日的課題	2
・令和6年度中学校長会の歩みと成果	3
・専門部会活動の概要（行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会）	4
・第75回全日本中学校長会研究協議会並びに第74回東北地区中学校長会研究協議会の概要	6
・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告	6
・第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会概要	7
・第75回東北地区中学校研究協議会山形大会概要	7
・第53回福島県中学校長会研究協議会相双大会概要	7
・支会情報と特色ある経営（郡山・岩瀬・耶麻・双葉）	11
・随想「校長の「三手の読み」」	12



令和6年度を振り返って

福島県中学校長会会長 板橋 竜男
(福島市立福島第一中学校)

今年度、中学校長会の会長として多くの会議に参加させていただいた。働き方改革プロジェクトチーム会議、県立中学校・高等学校入試事務調整会議、特別支援教育推進会議、部活動地域移行・改革検討委員会、公私立高等学校協議会、PTA連合会、ICT学びの変革推進会議、夜間中学校設置検討委員会・・・他にも多くの会議があったが、どれも単発的に1回で終わるのではなく、複数回にわたって行われたものばかりである。この他にも中教研や中体連、教育センターでの初任研実施協議会等を合わせるとかなりの数の会議に出席した。

これらの会議は、今の学校課題を反映しているものが多く、すぐに解決しなかなければならない喫緊の課題、また、将来にわたって解決しなければならない課題と様々である。そのため、会議主催の国や県、市町村の事務局も、それぞれの立場からの意見を聞いて、何とかしたいという強い思いを十分に感じとることができた。

私自身も、理事会や各部会（行財政部会、研究部会、進路指導部会、生徒指導部会、広報部会）での話し合いなどから話題になった内容をまとめて、それぞれの会議において、中学校の現状、課題について、情報提供を行ってきた。

例えば、不登校については、理事会や生徒指導部会での各支会の現状と原因、課題についてどのように対応しているか、研究部会での生徒が学校に来たがるような学校経営とはどのようなものか、進路指導部会での不登校生徒の進学状況についてどのようになっているか等をまとめ、学校現場では何に困って、何を支援してもらうべきか意見することができた。

これら一連の会議に出席して共通する考え方は、個人と社会のWell-being、あらゆる他者を価

値あるものとして尊重し、多様な人々といかに協働して進められるかであった。そのため、生徒の発達を支えるべき指導が、以前よりかなり多岐に及び、私たちも十分にそのことを理解し、周りも整備されながら進んでいるかという課題があった。

学習指導要領にもあるように特別な配慮を必要とする生徒（特別に支援を要する生徒、海外から帰国し日本語が十分でない生徒、不登校、不登校傾向にある生徒など）は、年々増えている。逆に普通学級に入級する生徒は減少し、本校でも次年度は普通学級の各学年での学級数より、特別支援学級の方が多くなり、また、日本語指導が必要な生徒もおり、不登校生徒も増えている。その上で、個別最適化された学び、協働的な学び、探究化された学び、を多様な生徒に進めていくことになる。

このように学校には様々な生徒がいるし、もちろん教職員も様々である。私たち校長が理念を語るのはよいが、それらすべてをすぐに理解し、アイデアをもって活動に取り組むには時間が必要である。この働き方改革の中で、十分な伝達の時間や意見交換など理解する時間がない中でも、進めて行かざるをえない。一転突破で、一つのこと集中して進めていくことがよいのか、実態に合わせてスモールステップでいくことがよいのか・・・悩みどころである。

校長としての仕事は、校務である学校経営はもちろんであるが、「所属職員を監督する」という仕事がある。これは単に、職員を管理・監督し、把握するといった管理面だけの問題ではなく、将来にわたって、所属職員を育成することも含まれてくる。そう考えると、今の学校課題を解決しながら、どう人材育成につなげていけるか・・・。そのための、各支会、各部会での私たちの活動につなげていきたい。

学校教育の今日的課題



探求する気持ちを忘れずに

福島県中学校長会副会長 長谷川 浩文
(会津若松市立第三中学校)

本校の合唱コンクールは、「灯火のつどい」といいます。灯火とは灯台の光のことです。先日先輩の校長先生からその名前の由来を聞きました。「若松三中という母船で3年間を過ごした生徒たちは、卒業するとその目標実現のために自らの手で対岸の目標まで泳ぎ切らねばならない。灯台の光は母親のように、時には厳しく時には優しく明かり灯す。その明かりを目標に生徒は努力し、教員は生徒が無事たどり着くことを願う。」そんな思いをこめた名前とのこと。一つの学校行事にも、それを作り、受け継いできた伝統や思いがあります。形は変化はしても、引き継がなくてはいけないものがあることに気づかされます。

さて、現任校に着任した3年前、まず驚いたのが空き教室の多さでした。普通教室は各階7つあるのですが、使っているのは3つのみ。残りは習熟度対応など別の目的で使っています。西暦2000年に590人だった生徒数は、現在280人余りと半分以下になりました。

生徒数が減れば教職員定数、行事や部活動にも影響が出てきます。また、地域の高齢化が進み、空き家が目立つ状況のなか、地域との連携のあり方も変える必要も出てくるでしょう。コロナの影響もありましたが、若松三中のこれからを考えたとき、何をどう残しどう変えるか校長として先々を見て判断しなければなりません。

また、全国的に不登校児童・生徒の増加が問題になっていますが、本校も例外ではありません。私が着任した3年前にはコロナ禍の中、特に女子生徒の不登校や別室登校が多く、対応に苦慮し、各学年バラバラに対応していたので、SSRを作りそこで学習させたらどうかと提案しました。また、自分ひとりで自習するのではなく、教員がいるところで学習をさせたいという思いで、先生方が1時間ずつ交代で行く形にしました。

SSRの場所も問題でした。空き教室はあっても適切な環境ではなかったので、会議室を充てました。問題はエアコンです。今は付きましたが、夏場は引っ越しせざるを得ませんでした。

生徒把握の方法や支援のあり方などは、先行実践を読んだり近くのSSR設置校の話を開いたりして手探りで少しずつ改善をしていきました。先生方に負担がかかるのは目に見えていましたが、生徒指導部が中心に運営をし、少しずつ形にしていき、授業では実技教科や実験なども時々織り込むようにしました。また、SSRに生徒が登校し、職員室の出席確認のホワイトボードに登校した時間と名前を書くようにすると、「〇〇さん、来たんだね。」と先生方が話題にするようになり、徐々に生徒の「居場所」として有効だと先生方が認識し、どう活用するか考えるようになりました。

私自身も個別最適な学びについて考える大きな転換点になり、今までと違った生徒観、指導観が出てきたような気がします。それが教員として今さらながらの進歩です。

さて、思い出すのは、昨年度会津若松市で行われた東北地区中学校長会研究協議会の講演会で高橋洋平氏が話された『「探求する学校」のリーダーであれ!』という言葉です。高橋氏は、先生方が仕事や授業を改善し続ける、それを校長先生が支える、いわば探求する学校へ転換するリーダーシップが求められると述べられました。

少子化や不登校、また働き方改革など目の前に山積する問題は、簡単に答えが導き出されるものではなく、日々探求しなければならない課題です。だからこそ校長には、強い使命感と責任感、そして先生方とともにその課題に真剣に向き合っていく姿勢が求められます。また、探求する気持ちを常に忘れず、さらには先生方の心に火を灯す校長であってほしいと思います。

令和6年度

「中学校長会の歩みと成果」

福島県中学校長会事務局長 菅野 浩智
(福島市立福島第三中学校)

令和6年4月17日(水)に、本会総会が開催されました。総会では、令和5年度の会務・事業報告及び会計決算について、また、令和6年度の事業計画及び会計予算等について承認され、令和6年度がスタートしました。今年度も、会員の皆様のご協力のもと、昨年度の取組に改善を加えながら、予定されていた事業を滞りなく実施することができました。

今年度の理事会での情報交換は、事前に理事の方々にテーマをお知らせし、そのテーマに基づいて「各支会の現状と課題」についてお話をいただきました。設定したテーマ及び情報交換の内容は次のとおりです。

- 1 教員配置の現状と対応について
 - ・ 加配教員が配置されず、その分の授業を、教頭が行っている。
 - ・ 特別支援学級の担任に学年の副担任を兼務してもらっている。
 - ・ 人材を探すしかない。理科の教員免許は、薬剤師や医療関係者の中に持っている人もいるようだ。
 - ・ 産・育休、病休の補充がない。
- 2 人材の育成について
 - ・ 教頭志願者対象の勉強会を開催しているが、希望者が少ない。
 - ・ 地区校長会に人材育成委員会という組織を設置した。
 - ・ 他校の校長と連携しながら昇任考査受考の対象となり得る人材に働きかけている。
- 3 不登校の現状と課題について
 - ・ 在籍校でなく近隣のSSR設置校への通学を認めている。
 - ・ 不登校に特化した生徒指導委員会を月に一回開催している。
 - ・ 不登校生徒保護者との校長面談を模索している。

各支会からの情報は、今後、教育活動を推進していく上で非常に参考になり、有意義な時間を過ごすことができました。

また、関係機関との懇談会では、本県中学校教

育の現状や課題を伝えたり、関係機関の現状等について説明をいただいたりしました。どの懇談会でも時間が足りなくなるくらい活発な質疑応答が行われました。

- 1 県公立学校退職校長会との懇談会

- 令和6年7月18日(木)
- 懇談会開催の趣旨説明
- 各部会からの活動報告
- 質疑応答 他

- 2 県教育庁との教育懇談会

- 令和6年8月19日(月)
- 行財政調査及び生徒指導調査の結果についての説明
- 質疑応答、話し合い

- 3 関係教育団体との教育懇談会

- 第1回：令和6年8月5日(月)
- 第2回：令和7年1月6日(月)
- 出席団体
 - ・ 県小中学校教頭会
 - ・ 県学校保健会養護教諭部会
 - ・ 県学校給食研究会栄養士部会
 - ・ 県公立小中学校事務研究会
 - ・ 県小学校長会
 - ・ 県中学校長会
- 各団体の現状説明及び情報交換

- 4 要望活動

- 令和6年9月6日(金)
- 面談・意見交換会
 - ・ 県人事委員会
 - ・ 県議会議員各会派
- 「要望書」届
 - ・ 県市長会及び町村会
 - ・ 県町村議会議長会

※ 要望内容は要望書を確認

学校を取り巻く教育環境の整備、学習指導及び生徒指導に係る問題等教育課題は山積ですが、今年度の活動の成果を踏まえ、中学校教育の更なる発展・充実に向けて尽力してまいりたいと思います。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県校長会では今年度も、行政機関等に教育行政上の課題解決のための要望活動を行いました。そのエビデンスとなるデータや資料を収集するために、各学校の協力で得た調査活動の報告内容を分析しているのが行財政部会です。各学校長の協力をいただき、令和6年度も有意義な調査活動を推進することができました。ありがとうございました。

調査活動後は、今年度の成果と課題を整理し、次年度調査の改善を図りました。各学校におかれましては、各校の調査回答がエビデンスとなり、次年度も実効ある要望活動になるよう、引き続き調査活動にご協力ください。よろしく願いいたします。

1 活動の重点

- 多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

2 調査活動

- (1) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (2) 調査Ⅱ：教育施策の実施状況に関する調査
- (3) 特別調査：大震災・原子力災害の影響及び教員業務支援員に関する調査
- (4) 令和7年度「教職員人事の反省」(3学期)

3 関係機関への要望活動

9月6日に、板橋竜男県中学校長会会長、石幡良子県小学校長会会長を中心に、県小・中学校長会として要望活動を行いました。要望書は各支会を通して会員に配付しております。

4 その他関係機関との懇談会

- (1) 福島県公立学校退職校長会との懇談会
(7月18日)
- (2) 福島県教育庁関係者との懇談会(8月19日)
(行財政部会長 吉田 牧子)

● 研究部会 ●

1 共通理解に基づく共同研究の推進

3年継続研究の最終年度、研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を指標とした8つの小主題について「研究の手引き」に基づき、各支会・各学校の実態に即して研究を推進しま

した。今年度は県大会ではなく各支会ごとの研究協議会を開催し、全会員参加により、校長としての識見を高めることができました。

2 研究集録の編集及び刊行

研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、各支会における研究の成果を収めた「研究集録」を全会員に配付し成果を共有することができました。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

全日中校長会研究協議会岩手大会(兼東北地区中校長会研究協議会岩手大会)が開催され、分科会や記念講演等で情報交換や校長としての識見を高めました。また、南会津支会が第3分科会(道徳教育)で発表しました。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

福島の実状を記録し累積するために、研究集録の中に「ふくしまの今～双葉支会の現状～」を継続して掲載し、また、本県の課題である「放射線教育」についても掲載し、全会員での共有を図りました。

5 「2025-2027 研究の手引き」の発行

来年度から始まる、新しい研究主題に基づく3年計画の研究のための「研究手引き」を作成し、全会員に配付しました。

☆ 会員の皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(研究部会長 吉川 信夫)

● 進路指導部会 ●

1 今年度の主な活動

- 「中学生活と進路」の編集
昨年度の県版のオールカラー化を受けて、資料等の修正を中心に行いました。
- 高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携
「進路指導に関する調査」の集計等の情報をもとに、入学者選抜事務調整会議において、中学校の立場から提言をしました。調査書記入用の「県大会以上の主な大会及びコンクール等略称一覧」については、各支会からの情報提供により改定を行い、高等学校長協会と連携を図りました。
- 諸調査の実施と資料の提供
進路動向調査(9月・12月)を実施し、情報提供を行いました。進路指導に関する調査

(その1・その2)は、Googleフォームを活用して支会での集約の負担を軽減して実施しました。

2 成果や課題等

- ・入学者選抜事務調整会議においては、前期選抜の合格発表時に、特色選抜の合格者の一覧表の明示やその資料の中学校への提供方法が、県教育委員会より中学校に示されるという大きな前進がありました。また、学区外からの受験しやすくなる高校の追加(川俣高校・猪苗代高校)もされています。
- ・キャリア教育代表者研修会の情報等を活用し、「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育が推進できるよう、「中学生生活と進路」の効果的に活用について、事例の研究や紹介等を進めていきたいと考えています。

(進路指導部会長 阿部 洋己)

● 生徒指導部会 ●

1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

各学校で校長がリーダーシップを発揮し、自己存在感を与え、共感的な人間関係を構築し、自己指導能力を育成する教育活動が展開されました。ネットトラブル等の課題に対しても、生徒指導の機能を生かし、安全・安心な風土醸成を図り、規範意識を高める指導を実践しました。

2 生徒指導上の諸問題解決と未然防止

6月に「生徒指導上の諸問題に関する調査」を実施し、過去6年間の経年変化から生徒の実態について数値化を図り、分析・考察しました。

不登校は、年々増加傾向にあり過去最多となりました。対策に行き詰まる事例も見られ、関係機関との連携強化が必要です。いじめは、初期段階で積極的に認知する姿勢を継続し、生徒間の接触・関わりを注意深く観察することが求められます。反社会的行動は様々な項目で大きく増加しました。今後、問題行動への対策と、未然防止に向けた、家庭等と連携した日々のきめ細やかな生徒指導が求められます。ネット利用は、増えてきたネット依存に関する医療機関との連携等、子どもを守る対策を講じる必要があります。他にも、数値に現れない困難な状況が報告されており、県全体で共有し早急に対策を講じる必要があります。

3 小学校及び高等学校、関係機関等との連携

異校種との連携が強まり、校則見直し、性に関する課題等、今日的課題に関して、関係機関の協力を得ながら、地域と一体となった指導・

協力体制が構築されています。

4 生徒手帳の編集、刊行

令和7年度版「生徒手帳」は、編集委員を中心として編集、刊行することができました。

(生徒指導部会長 石綿 厚)

● 広報部会 ●

本年度の広報部会は、広報誌を年2回発行するとともに、ホームページの維持・管理を行いました。広報誌については、会員の皆様に役立つ情報、興味をもって読んでいただける内容を目標に紙面づくりを工夫してきました。校長先生方の思いや願い、各支会・各部会の活動の特色や工夫が伝わる広報誌ではなかったでしょうか。次年度も更に読み応えのある広報誌発行を目指していきたいと思えます。ご多用の中、原稿執筆を快く引き受けてくださった校長先生方ありがとうございました。

【主な活動内容】

1 広報誌 第172号(7月1日発行)

- 会長就任の挨拶(板橋竜男会長)
- 県中学校長会総会の概要及び組織
- 学校教育の今日的課題(埴 広治副会長)
- 令和6年度の活動と運営(菅野浩智事務局長)
- 各専門部活動の概要(各部会長)
- 第75回全日中総会報告(梅宮賢庶務)
- 支会情報と特色ある経営(伊達・石川・北会津・いわき)
- 新会員紹介及び新会員の声
- 随想(小山健幸副会長)

2 広報誌第173号(3月1日発行)

- 令和6年度を振り返って(板橋竜男会長)
- 学校教育の今日的課題(長谷川浩文副会長)
- 令和6年度県中学校長会の歩みと成果(菅野浩智事務局長)
- 各専門部活動の概要(各部会長)
- 第75回全日中研究協議会岩手大会(兼第74回東北地区中研究協議会岩手大会)の報告
- 県小中学校合同理事会・中学校理事会報告
- 令和7年度県中学校長会主要行事予定
- 令和7年度第76回全日中研香川大会・第75回東北地区中研山形大会概要
- 令和7年度第53回県研究協議会相双大会概要
- 支会情報と特色ある経営(郡山・岩瀬・耶麻・双葉)
- 随想(熊谷幸司副会長)

(広報部会長 永峯 秀桐)

第75回全日本中学校長会研究協議会並びに第74回東北地区中学校長会研究協議会の概要

事務局長 菅野 浩智

今年度の全日中研究協議会並びに東北地区中研究協議会は、10月16日（水）～18日（金）の3日間、岩手県盛岡市で開催されました。本県からは、会長他事務局及び各支会の代表、計104名が参加しました。主な日程と内容は次の通りです。

第1日：10月16日（水）

- 全日中常任理事会・理事会 他
 - ・ 理事会に、板橋 竜男 会長が出席

第2日：10月17日（木）

- 開会式
- 文部科学省説明
- 全体協議会
 - ・ 第1及び第2研究協議会それぞれについて、全日中総務部及び四国地区（香川県）校長会が提案
- 分科会
 - ・ 8つの分科会に分かれての研究協議
 - ・ 第3分科会（道徳教育）で本県が発表
発表者：檜枝岐村立檜枝岐中学校長
鶴巻 厚保 氏

第3日 10月18日（金）

- アトラクション（矢巾北中特設合唱部）
- 全体会（大会宣言決議）
- 記念講演
 - ・ 講師 国立天文台水沢VLBI観測所所長
本間 希樹 氏
 - ・ 演題 黄金の國いわて発 銀河系経由
ブラックホールへの旅

○ 閉会式

3日間にわたる標記大会は、成功裏のうちに幕が下りました。今年度は、第3分科会での発表が本県に割り当たっており、南会津支会に担当していただきました。当日の発表に至るまで、支会一丸となって取り組んでいただいたことに、改めて感謝申し上げます。本大会での文部科学省説明、全体協議会及び分科会の提案や発表等の内容や示唆、さらには大会宣言決議をしっかりと受け止め、日々の学校経営に生かしていくことが大切であることを痛感しました。

詳細につきましては、全日本中学校長会編集「中学校 856号（1月号）」をご覧ください。

● 小・中学校合同理事会報告 ●

今年度は、年間を通して計4回の合同理事会をすべて参集により開催しました。各合同理事会の日程・会場・内容は次のとおりです。

第1回：6月14日（金）福島グリーンパレス

- ・ 令和6年度合同開会式の反省について
- ・ 令和6年度人事の反省
- ・ 令和6年度要望活動、教育懇談会 等

第2回：8月19日（月）福島グリーンパレス

- ・ 令和6年度行財政部（会）諸調査報告
- ・ 各種団体との教育懇談会について
- ・ 令和6年度要望活動、教育懇談会 等

第3回：12月2日（月）パルセいいざか

- ・ 令和6年度要望活動の報告
- ・ 令和7年度行財政調査について
- ・ 退職役員感謝状贈呈式・感謝会について
- ・ 令和7年度主要行事予定について 等

第4回：2月21日（金）あづま荘

- ・ 令和7年度教職員人事の反省について
- ・ 令和7年度合同開会式、行事予定 等

また、第2回合同理事会後には、県教育長及び教育庁職員との教育懇談会も実施しました。

● 中学校理事会報告 ●

年間を通して開催した理事会の日程、会場、主な議事は次のとおりです。

第1回：4月17日（水）パルセいいざか

- ・ 県中学校長会総会提案事項について

第2回：6月14日（金）福島グリーンパレス

- ・ 今年度全日中総会及び理事会について
各部会の活動について 他

第3回：8月19日（月）福島グリーンパレス

- ・ 東北地区中理事会及び全日中の動き、各種研究協議会について、各部会の活動報告 他

第4回：12月2日（月）パルセいいざか

- ・ 全日中理事会報告、今年度の要望活動
各部会の活動について 他

第5回：2月21日（金）あづま荘

- ・ 事業報告、会計決算中間報告、次年度総会及び第1回理事会運営について

各理事会においては、各支会の現状と課題について協議及び情報交換を行いました。また、県中教研会長及び県中体連会長から、現状や今後の予定等についてお話をいただきました。

令和7年度県中学校長会主要行事予定

(県、東北地区中、全日中関係)

月	日	県 関 係	東北地区中・全日中関係
4	9	合同事務局会①	
	16	総会・理事会①	
5	8	行財政部合同部会長会①	
	12	研究部会長会①	
	14		全日中理事会①
	15		全日中総会～16
	19	進路指導部会長会①	
	22	生徒指導部会長会①	
	28	合同事務局会②	
6	13	合同理事会① 理事会②	
	30	行財政部合同代表部会長会①	
7	3		東北地区中理事会①
	3	広報第174号発行	東北地区中研山形大会～4
8	4	合同事務局会③	
	19	合同理事会② 理事会③	
		県教育庁との懇談会	
9		要望活動	
10	10	県研究協議会相双大会	
	20	進路指導部会長会②	
	22		全日中理事会②
	23		全日中研究協議会香川大会～24
11	11	生徒指導部合同部会長会①	
	13	研究部会長会②	
	17	合同事務局会④	
12	2	合同理事会③ 理事会④	
1	16		全日中常任理事会・理事会③
	21	研究部代表部会長会①	
	27	進路指導部代表部会長会①	
	29	生徒指導部代表部会長会①	
	30		東北地区中副会長会・理事会②
2	3	合同事務局会⑤	
	5	行財政部合同部会長会②	
	20	合同理事会④ 理事会⑤	
3	17	会計監査	
		広報第175号発行	

第76回全日本中学校長会研究協議会 香川大会概要

標記大会が香川県高松市で開催されます。

- 期 日
◇ 令和7年10月22日(水)～24日(金)
- 会 場
◇ レクザムホール大ホール 他
- 大会主題
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」
- 主な内容
22日(水)：常任理事会、理事会
各運営委員会、レセプション

- 23日(木)：開会式、文科省説明
全体協議会、分科会
24日(金)：アトラクション、記念講演
- その他
記念講演の講師は、松尾 豊氏(東京大学大学院工学系研究科教授)です。
アトラクションでは、サヌカイト演奏を予定しています。
福島県から23名参加予定です。

第75回東北地区中学校研究協議会 山形大会概要

令和7年度の標記研究協議会が山形県山形市で開催されます。

- 期 日
◇ 令和7年7月3日(木)～4日(金)
- 会 場
◇ やまぎん県民ホール 他
- 大会主題
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」
- 主な内容
3日(木)：理事会、研究協議会開会式
全日中報告、記念講演
4日(金)：分科会別研究協議
- その他
分科会場として、ホテルメトロポリタン、山形国際ホテルを利用予定です。
福島県から102名参加予定です。

令和7年度 第53回福島県中学校長会 研究協議会相双大会概要

標記大会が南相馬市で開催されます。

- 期 日
◇ 令和7年10月10日(金)
- 会 場
◇ 南相馬市民文化会館
《ゆめはっと》(全体会・分科会)
◇ 原町生涯学習センター
《サンライフ南相馬》(分科会)
◇ 原町区福祉会館(分科会)
- 大会主題
「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」
- 主な内容
10:00 開会式(国歌斉唱、あいさつ、祝辞)
10:40 講演会(福島イノベーション・コースト構想についての講演を予定)
13:15 研究協議(第1～第8小主題)
15:25 閉会式(分科会ごとに)

支会情報と特色ある経営

郡山

郡山支会の活動



郡山支会長 小山 健幸
(郡山市立郡山第五中学校)

郡山支会は、今年度、他管内及び行政から3名、特例任用及び再任用校長が8名、校種間異動1名、昇任者1名の校長先生方を迎え、市内中学校26校、義務教育学校2校の計28校で組織し、緊密な連携のもとに会を運営しています。次年度は県立安積中学校が入会予定です。

本市学校教育の課題である教員不足、教職員の不祥事防止、不登校への対応、教員志願者及び教頭昇任志願者の減少などの情報を共有し、郡山市教育委員会のご指導の下、校長会全員の知恵と経験を生かし、対応しているところです。主な取組みは以下のとおりです。

1 定例会の開催

年6回の定例会の開催により、学校間での情報・意見交換の充実を図り、支会の実情や課題について正しく理解するとともに、連携を密にしながら諸課題に対応しています。

2 特別委員会設置

支会の実態に応じた実行ある活動を推進するため、3つの特別委員会を設置しています。特に人材育成委員会では人材の発掘や管理職を目指す研修会の実施と、資料の提供を行いました。

3 連携教育の充実

- (1) 市教育委員会との連携では、学力向上、働き方改革、不祥事防止等の諸課題に係る会議や研修会等へ協力するとともに、教育懇談会を開催し、今年度は「部活動の地域移行」「働き方改革」について懇談を深めました。
- (2) 中高特連絡協議会を開催し、進路指導や生徒指導等について意見交換を行いました。
- (3) 退職校長会郡山支部との教育懇談会を開催し、今年度の活動状況についての情報交換と退職校長会の皆様からアドバイスをいただきました。
- (4) 義務教育9年間を見据えた教育課程を編成して系統的な教育を目指すため、各中学校区の実態に応じた連携教育を実施しています。

以上の点を中心に、本支会の組織力を生かした取組みを積極的に行っています。本支会の活動を通して校長としての力量を高め、それぞれの学校の教育活動の更なる充実に取り組んでいます。

《学校紹介》

地域の伝統文化「歌舞伎」を受け継ぐ

郡山市立御館中学校

郡山市の東部に位置する本校は、豊かな自然環境に恵まれ、春はウグイスの囀りがあちらこちらから聞こえ、夏はホトトギスの甲高い声が山々に響き、秋はモズの鋭い鳴き声が宙を切り、冬はコゲラの木をつつく音がこだまします。また、「御館」という校名からもわかるように、かつては三春藩の館（やかた）があったということで、歴史と文化にあふれた地域です。

学区内に柳橋という地区があり、そこには江戸時代から200年以上にわたり受け継がれてきた「柳橋歌舞伎」が今も息づいています。昭和58年には郡山市の重要無形民俗文化財にも指定され、毎年9月に柳橋歌舞伎定期公演が行われます。本校では総合的な学習の時間を中心に、平成17年から歌舞伎学習に取り組み、これまで柳橋歌舞伎定期公演を始め、校内文化祭等で様々な演目を発表してきました。

現在は生徒から希望をとり、「役者」「化粧」「三味線」の3つのコースに分かれ、地域の歌舞伎保存会の方々や地域コーディネーターのご指導を受け、全校生が一丸となって歌舞伎学習に取り組んでいます。今年度も9月の定期公演と10月の文化祭で「義経千本桜～伏見稲荷鳥居前の場～」を上演し、多くの方々に観覧していただくことができました。

本校の教育目標は「夢」、そして「郷土の伝統文化を尊重し継承する態度を養い、歌舞伎学習を通して表現力やコミュニケーション力を育成する」ことが、今年度の学校経営重点目標の一つです。年々生徒数が減少し、一人で何役もこなすことが多くなりましたが、文化の継承に力を入れ、地域に根ざした学校経営に取り組んでいます。

(校長 芳賀 実)



岩瀬

岩瀬支会の活動



岩瀬支会長 中瀬 宏昭
(須賀川市立仁井田中学校)

岩瀬支会は「岩瀬は一枚岩」を小・中・義務教育学校長協議会のスローガンとして、須賀川市、鏡石町、天栄村の小学校21校、中学校11校、義務教育学校1校が一丸となって、地区の教育課題に取り組んで参りました。今年度は中学校長会には新たに5名の新会員をお迎えし、行政経験や他地区での豊富な知見を生かしていただきながら緊密な連携を図り、地域の実情に応じた特色ある学校経営の充実に取り組んでいます。

1 岩瀬地区小・中・義務教育学校長による協議会
小・中・義務教育学校長が年4回一堂に会し、地区全体の課題に対する情報交換や協議を行い、自校の課題解決に生かしています。

2 学校経営研究会

年2回の研究会を開催し、教育事務所長や外部講師による講話から、行政説明によって県や域内全体の課題と対策について共有したり、イノベティブな事業経営から、学校経営に創造的な発想を取り入れ、学校づくりに新しい視点を得たりする貴重な機会となっています。

3 新任校長研修会

新任校長を対象に、校長としての資質の向上、職員の勤務・服務、人事評価や人事事務等について、年3回の研修会を行い、学校経営の視点や人事に関する事務が適切に行えるよう学び合えるようにしています。

4 外部団体との緊密な連携

退職校長会や福祉・司法機関、医師会等の各団体との連携には担当を配置し、生徒に必要な指導・支援策について積極的な情報共有・提供を行えるよう体制を整えています。

今後とも、校長各自の豊かな経験や実績を積極的に生かすとともに、研修と交流によって益々深化する岩瀬支会となるよう努力して参ります。

《学校紹介》

地域に愛される学校を目指して

須賀川市立小塩江中学校

本校は、全校生徒は23名の小規模校であり、生徒会活動や部活動、様々な学校行事において一人何役もこなさなければなりません。しかし、むしろそういった経験を通して実力を伸ばすことができる学校です。

さらに、地域とのつながりが大きく、「地域と共にある学校」であることも「強み」の一つです。

本校では、小塩江コミュニティセンターが主催する「三世代交流事業」に参加しています。地区の老人クラブの方々や小塩江小学校の児童と一緒に、「田植え」「稲刈り」を体験し、11月の「収穫祭」では、収穫したもち米を杵と臼で餅つきをして収穫の喜びをみんなで味わいます。



さらに、地元の方を講師に招き、地域に伝わるわら細工であるしめ飾りづくりに取り組んでいます。

このように地域からたくさんの支援を受けている一方で、学校が地域に貢献していくことも重要な使命であると考えています。

その1つの取り組みとして「小塩江ジュニアボランティア」の活動があります。

主な活動として、「小塩江小学校運動会」や「地区運動会」では全校生徒が競技役員として参加し、大会運営をサポートします。

また、地区の清掃活動にも取り組んでいます。小学生や地域の方々からの「ありがとう」の言葉に、生徒たちは達成感と充実感を感じています。

家庭や地域の教育力の低下が叫ばれる中、地域との連携・協働は必要不可欠です。「学校は地域の宝である」ことを胸に刻み、これからも「地域に愛される学校」づくりを目指していきます。

(校長 高橋 光政)

耶 麻

耶麻支会の活動



耶麻支会長 佐藤 毅
(喜多方市立第二中学校)

耶麻支会は、喜多方市7校、北塩原村2校、西会津町1校の計10校で組織されています。10名の会員のうち3名が管外から新任校長として耶麻支会に配属になっており、新任校長の研修の場としての位置づけも自覚した平均年齢55歳の比較的若い校長会であります。また、会員相互の親睦を図りながら、和気あいあいとした雰囲気の中で、「一枚岩」で取り組んでいる校長会でもあります。

1 耶麻地区小・中学校長会連絡協議会・研修会
年間5回実施しています。内容は県理事会や各専門部の活動内容、各連絡協議会等の報告を行い、会員が情報を共有し、各校の学校経営に生かしています。研修会では、有識者を講師として招聘し、教育課題やその対処方法について研修を行っています。

2 小・中別会議

耶麻地区小・中学校長会連絡協議会終了後に小中学校別に分かれ、中学校特有の教育課題や各学校の実践内容を共有するとともに、新任校長の疑問や質問に各校長が答える「井戸端会議」的な会議を行っています。会員同士が膝を突き合わせて懇談することができる非常に有意義な会議でもあります。

3 耶麻地区中学校・高等学校連絡協議会

耶麻地区の中学校長と高等学校長が意見交換する会議を年2回実施しています。会議の前には校長や各中学校の教員が高校の授業参観を自由に行い、高校生の学習の様子を見ることができるようになっています。会議では、お互いの立場で自由に意見交換を行い、スムーズな高校入試事務につながっています。

若い校長集団の耶麻支会ですが、自由な発想や行動力で、会員一人一人が充実した学校教育に取り組めるよう日々精進して参ります。

《学校紹介》

早寝早起き朝ごはん

喜多方市立塩川中学校

本校は「さわやか塩中生の育成」を教育目標に、教育熱心な保護者や地域に支えられ、生徒達は授業やスポーツ、学校行事等に熱心に取り組んでいます。しかし近年、睡眠不足、朝食内容の課題、スマートフォン・ゲームの長時間利用など、生活習慣改善を課題とする生徒が増えてきました。

そこで、令和4年度から本校を基幹校として、学区内4つの小学校、学校医と連携し、市教育委員会と市福祉部局に指導助言いただきながら「生活自己マネジメント能力育成実行委員会」を組織し、睡眠時間確保・食育・SNS対策を柱とした「早寝早起き朝ごはん推進事業」に取り組んでまいりました。このことにより、学区内で組織的・継続的に児童生徒の健康課題に取り組む体制が構築されました。その一部を紹介いたします。

- 各校の健康診断・生活調査結果の共有と分析、健康課題の洗い出しと改善策の検討（年2回）
- 「朝の具だくさんみそ汁週間」による食育
- 生徒会を中心に作成した「塩中スマホルール」強化週間でスマホ利用上の注意を啓発
- マイランチデー（児童生徒が自作弁当をつくる日・年2回）による記録と振り返りこの取組の結果、朝食摂取率が事業開始から90%以上を維持、さらに野菜や具材入り汁物の朝食時摂取率が大きく上昇しました。また、「マイランチデー」実施により、弁当準備が「楽しい」と思う生徒が増加し、家族内の役割や感謝の気持ちをもつきっかけになりました。「塩中スマホルール」は、スマホ利用時のスタンダードとして浸透し、生徒たち自身が自発的に生徒総会等で繰り返し啓発する活動が続けられています。今後も本校の継続事業として、取組を続けていきたいと考えています。

(校長 本多康夫)



双葉

双葉支会の活動



双葉支会長 武内 雅之
(富岡町立富岡中学校)

皆様には、これまで震災及び原発事故で被害を受けた多くの学校へ継続的なご支援を賜り、衷心より感謝

申し上げます。

震災からまもなく14年を迎えます。双葉支会は現在、8町村9校(県立ふたば未来学園中・高等学校を含む)、9名の会員で組織され、「双葉は1つ」と強い結束のもと、相互に情報共有・連携を図り、教育の復興・推進を目指して活動しています。一昨年、大熊町の学び舎ゆめの森が帰還し、双葉町も令和10年度に町内での学校再開を目指し委員会を立ち上げ、準備を進めています。

双葉支会の主な活動は、中学校独自で行う年4回の研修会、小・中学校長連絡協議会研修会が年2回、相馬支会と相双高等学校長会と連携した相双地区中高連絡協議会を年1回、双葉郡教育復興ビジョンの方針に基づく双葉地区中高連携協議会を年2回開催し、情報交換や地区の課題解決に向けた研修を深めています。また、中学校教育研究会は令和5年度より相馬支部と合併し、相双支部として再出発し今年2年目となりました。

次年度は、福島県中学校長会研究協議会相双大会を南相馬市で開催することになりました。相双地区開催は、平成17年度以来、そして震災後初めてということで、相馬支会・双葉支会が協力してその準備を進めております。

各町村の復興は確実に前進しており、帰還する生徒や移住による転入生は増えてきていますが、依然として生徒数は少なく、学習面・生活面の生徒への支援にあわせ、家庭の教育力の向上についても大きな課題となってきています。だからこそ校長会における研修は、双葉を知り、双葉の子どもを育てる上で必要不可欠なものと考えます。

今後も変わらぬご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

《学校紹介》

震災復興から未来へ：地域と歩む人材育成

楡葉町立楡葉中学校

本校は、福島第一原発事故からの復興を背景に、地域と連携し、生徒一人ひとりの成長を支援する学校経営に取り組んでいます。

1 社会的・職業的自立を促すキャリア教育

本校生徒が運営する模擬会社「Nalys」では、地域企業と連携し、商品開発や販売活動を行っています。この活動を通じて、生徒たちは、地域貢献、ビジネスの基礎、そして主体的な学びを体験しています。震災からの感謝の気持ちを形にしつつ、地域社会の一員として成長を促すことを目指しています。

2 身体表現を通じた学び：3Cプロジェクト

「Change」「Challenge」「Connection」の3つのキーワードのもと、本校では、運動能力向上だけでなく、心身の成長を促す取り組みを行っています。第一線のアスリートを招き、実践的な指導を受けることで、生徒たちは、スポーツの楽しさだけでなく、目標に向かって努力することの大切さを学びます。

3 JFAアカデミー福島との連携

中高一貫でサッカーエリートを育成するJFAアカデミー福島(女子)の生徒たちとの共生は、本校の大きな特徴です。全国各地から集まった生徒たちは、高い目標に向かって日々努力しており、その姿は、本校の生徒たちにとって大きな刺激となっています。

本校は小規模ですが、多様性に溢れた学校です。その中で、生徒たちが自ら考え行動し、成長できるような教育環境を整備し、一人ひとりの個性を尊重しながら、将来社会で活躍できる人材を育成しています。地域との連携を大切にし、世界基準の教育を目指して今後も取り組んでまいります。

(校長 松本涼一)



今この季節、将棋界では竜王戦が行われていますが、藤井聡太棋士がプロとなり活躍を始めてから一段と将棋がニュースで取り上げられるようになりました。

その将棋の世界に「三手の読み」という言葉があります。「三手」とは「自分の手・相手の手・自分の手」の「三手一組」のことです。一手目は、自分がどの駒をどのように動かすかを考え、次に、相手の手番である二手目について、自分の駒の動きに応じて、相手がどの駒をどのように動かすかを考える。そして、それをもとに三手目となる自分の手をさらに深く読んでいきます。

日本将棋連盟会長の羽生善治氏は、ある講演会で二手目の読みについて次のように述べています。

…（一手目の）自分がしたことは自分の意思で決められるのですが、二手目では、当然相手の価値観で判断しないと、正確な「三手の読み」にはならないのです。ここで間違えてしまうと、その先いくら手を読んで「勝手読み」となって、意味がなくなってしまうのです。…

一手打つのに80通りあるといわれますので、三手の読みでは80の3乗、50万以上の場合を想定し、その中から最適なものを選び出すということになります。将棋の奥深さを感じるころです。

日曜日の午前中、テレビでプロの将棋トーナメントが放送され、時々見るがあります。私自身は、小学校のクラブ活動でちょっとかじった経験があるだけなので、ほぼ素人のようなものです。ですから、テレビ画面で指されるプロ棋士の一手一手の狙いは簡単には理解できません。解説を務めるプロ棋士が、指し手の意味や意図を説明してくれて、ようやく合点がいくことばかりです。対局中、次の候補手を予測して紹介している解説者が、「この手は有効なんです、プロはこの手を選びません。」と言うことがあります。たとえ確実に勝利に近づく一手であっても、プロは決してその手を選ばないというのです。実際に、その一手が選択されることはありませんでした。おそらく、その手には「センス」がないのでしょう。将棋は研究の世界であり、自分の対局はもちろん、他の対局の指し手の是非まで徹底的に議論

し研究がされます。現在トップに君臨する藤井聡太棋士ですら、いまだに研究に余念がないそうです。「センス」とは、もって生まれたものではなく、プロの世界で揉まれ、磨かれ、研ぎ澄まされる一流の感覚なのでしょう。目先の勝ちにとらわれたり、時間に追われたりして、慌ててプロらしからぬ手を指すことにならないように努めているのだと受け止めています。

学校経営も一局の将棋のようなものかもしれません。私たち校長は、各校の教育目標の実現に向けて、たくさんの選択肢の中から一手ずつ指していきます。しかし、想定した通りに相手から二手目が指されることはあまりないのではないのでしょうか。子どもたちのよさを十分に引き出し伸ばすことができなかつた、保護者や地域の協力や理解を十分に得られなかつた、ということは多々あると思います。社会や教育的ニーズの変化に対応しつつも、軸がぶれることなく、責任ある判断を紡いで子ども達や保護者、職員が満足できる学校経営を行っていきたいものです。そのために、この県中学校長会のメンバーである校長同士が、積極的に議論したり研究したりしながら互いの感覚を磨きあい、一流の感覚である「センス」を身に付けることが必要なのだと思います。

先ほどの羽生会長の講演会は、次のように続いています。

随想

「校長の『三手の読み』」



福島県中学校長会副会長
熊谷 幸司
(福島市立大鳥中学校)

そのようなときに使えるのが、「鳥瞰的」な方法です。物事を大きな視野で大ざっぱに捉えてみる感覚的なやり方です。この鳥瞰的な思考というのは非常に感覚的なもので、とても便利なのですが、それだけに頼ってしまってもいけません。一つ一つ着実なロジックの裏付けが必要になってきます。その裏付けが「三手の読み」です。

二手目の思惑が外れると、私たちは三手目として、すぐに結果につながり簡単に選択できる「俗手」に縋りつくこともあるかもしれません。しかし、こんな時こそ鳥瞰的な思考に立ちかえり、深みのない「俗手」にとらわれず、だれもが深くうなずく「妙手」を指したいものです。新しい手を生み出す創造力と様々な手から一手を選ぶ決断力をもった皆様の今後の活躍を願っています。

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ◆貸し会議室(教育関係者は半額)
- 福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208



福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから